

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	17	学校名	静岡県立裾野高等学校	校長名	鎌田 正幸
------	----	-----	------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	社会に適應できる基本的な生活習慣の確立に向けた指導を充実する	裾野高校に入学してよかったと答える生徒100%【全員】	よかったと答えた生徒82.4% (81%) () 内昨年度	B	昨年度より少しよいが、さらに教育活動全体を通して学校の魅力を高める。
		服装が良いと答える生徒90%以上【生徒課他】	よいと答えた生徒94.3% (95%)	A	職員全体で服装・頭髪指導の徹底を継続する。
		挨拶ができると答える生徒90%以上【生徒課他】	できると答えた生徒87.1% (89%)	A	挨拶の励行と正しい言葉遣いの指導を継続する。
		出席率98.0%以上 遅刻・早退件数前年度比30%減【教務研修課他】	出席率96.7% (97%) 遅刻0.94%減 早退0.85%減	A	遅刻・早退については減少した。引き続き家庭との連携を図っていく。
		基本的な生活習慣の指導が適切に行われていると答える生徒85%以上【生徒課他】	適切に行われていると答えた生徒86% (86%)	A	日々の生活の中で、基本的な生活習慣の指導を引き続き適切に行っていく。
	委員会活動が活発であると答える生徒65%以上【生徒課他】	活発であると答えた生徒62.7% (58%)	B	五龍祭・球技大会等を通じて、各委員会の活動は、活発になっている。	
イ	望ましい社会性、規範意識を育成し、生徒の自立性・社会性を伸ばし、命を尊び健康で安全な生活を送らせる。	全校集会、学年集会で生徒に問題行動予防のための講話を毎回実施 問題行動の発生件数前年度比20%減【生徒課他】	式典、集会で毎回注意喚起を行った。 問題行動の件数は、9件(11件)18.2%減	A	SNSに係る犯罪、闇バイト等の指導の継続により、問題行動の件数は大きく減少した。ネット依存対策プログラムを利用し、データをもとに指導を継続する。
		PTA・地域との連携による交通安全指導を実施し、交通事故件数を前年度比20%減	交通事故2件(4件)50%減	B	交通安全教室の開催、日常の呼びかけの強化を図る。自転車のヘルメット着用を推進する。スマホの適性使用に関して、業者による分析結果をもとに、個別指導に活かした。

		<p>外部講師による交通安全教室を年2回実施 いじめ防止・スマホの適正使用に関する研修会(生徒・教員)2回以上実施 教育相談委員会の実施を年間6回以上 健康・安全に関する指導が適切に行われていると答える生徒90%以上【生徒・保健相談課他】</p>	<p>交通安全教室1回実施 いじめ・スマホ研修2回実施 教育相談委員会2回実施(随時実施) 健康・安全に関する指導が適切に行われていると答えた生徒84.6%(87%)</p>		<p>教育相談委員会やSC来校時等ケース会議を適宜開き、必要に応じて外部機関と連携しながら、生徒の抱える問題の解決や改善に努める。</p>
		<p>避難訓練を年3回実施。避難訓練は大切と答える生徒95%以上 地域防災訓練参加率前年度比10%増【総務図書課他】</p>	<p>避難訓練は1回、防災講話を2回実施した。 避難訓練は大切と答えた生徒92.9%(96%) 地域防災訓練参加生徒4%(7.6%27人)</p>	<p>B</p>	<p>訓練の重要性を理解している生徒は多いが、地域防災訓練の参加率へ結びついていないため、さらに呼びかけ等を工夫が必要である。</p>
		<p>保健便りを年10回は発行 疾病治療60%以上 特に、歯科受診率30%以上 朝食摂取率95%以上【保健相談課】</p>	<p>保健だよりは年12回発行 疾病治療32.9%(44.4%) 歯科受診率12.2%(20.5%) 朝食摂取率79.9%(80.1%)</p>	<p>B</p>	<p>生徒作成の保健便りの発行、がん教育のためのお便りによって、健康管理上の注意喚起を促すことができた。 受診率、朝食摂取率ともに向上のため、生徒への個別指導と共にCラーニング等を用いた保護者への呼び掛け等も検討する。</p>
		<p>教職員は生徒の話を親身になって聞いてくれると答える生徒90%以上 生徒面談年3回以上 生活アンケートを年3回実施し、問題がある場合は関係教職員が即座に対応 定例いじめ対策</p>	<p>親身になって聞いてくれると答えた生徒89.6%(91%) 生徒面談3回以上実施 生活アンケート3回実施 定例いじめ対策委員会4回</p>	<p>A</p>	<p>面談、生活アンケートは計画通り実施できた。 Cラーニングの使用により、生徒との相談等についても丁寧な対応が迅速にできるようになった。</p>

		委員会を年3回開催【保健相談課他】	実施		
		清掃により校内美化が保たれていると答える生徒80%以上【保健相談課】	校内美化が保たれていると答えた生徒68.8% (75.9%)	B	トイレの使用等、施設の環境維持において、生徒自身が心掛け、改善に向け努力している。継続して清掃用具等の整理を行う。
ウ	総合学科の特色を生かして、地域人材の活用を図り、基礎基本の定着や課題解決能力の向上を図る。	学習評価及びICT活用に関する研修を年3回以上実施【教務研修課他】	評価・ICT合わせて2回実施	A	端末の利用により、教職員のICT活用が多く、それ以外の研修が実施されている。さらに効果的な活用方法について研修を重ねていきたい。
		家庭学習をよくやっているという生徒35%以上 基礎力診断テストにより基礎学力の定着度が把握できたと答える生徒75%以上 授業で力がついたという生徒80%以上【教務研修・進路課】	家庭学習をよくやっているという生徒37.6% (40.9%) 基礎学力の定着度が把握できたと答えた生徒72.1% (70.9%) 授業で力がついたと答えた生徒83.2% (84.8%)	A	家庭学習への取組、学力の定着、授業で力がついたという生徒自身の実感はある。学習習慣が身に付いている生徒は一定数いる。学校全体で実施できる学習意識を向上させる取り組みを考える。(例：クラスでの学習時間の計測、掲示等)
		授業がわかると答える生徒85%以上【教務研修課他】	授業がわかると答えた生徒85% (90.1%)	A	生徒による授業評価等を実施し、授業改善を行った成果がでている。
		家庭学習時間調査を定期的に行い、生徒の実態を把握する。【教務研修課他】	平日:30分未満66% 30~60分未満:20.9% 休日:30分未満69.5% 30~60分未満20.3%	B	各教科で課題や小テスト等を調整して、毎日の学習時間の確保を図る。 家庭との連携をより積極的に図る。
		朝読書はよい効果があると答える生徒70%以上 年間で読んだ本平均4冊以上【総務図書課他】	よい効果があると答えた生徒65.2% (67.3%) 平均貸出冊数2冊 (2.3冊)	B	週5回の朝読書、1クラスあたり年40冊の学級文庫の貸し出しを行っている。貸出・返却の手続きが不要な「自由文庫」を設置した。

		<p>系列や選択科目が希望進路に応じていると答える生徒 90%以上 オープンスクールにおける来校者の満足度 97%以上 地域人材の活用 150 件以上 地域関連事業の実施年 30 件以上【教務研修課他】</p>	<p>希望進路に応じていると答えた生徒 91.4% (93%) 一日体験入学における来校者の満足度は、96.9% (98%) 地域人材の活用 188 件 (146 件) 地域関連事業の実施 37 件 (46 件)</p>	<p>A</p> <p>系列の選択については、ガイダンスや個別面談等を通じて、ほぼ満足のいく選択ができた。 一日体験入学やオープンスクールの来校者は授業や施設見学、学校説明等で本校に対する理解を得られている。 アンケート回答より、体験授業に興味が高かったことが満足度につながった。</p>
エ	<p>キャリア教育を推進し、地域や産業社会の変化に対応しながら自己実現のできる人材育成を図る。</p>	<p>3 年生の就職者の第一志望合格率 95%以上 3 年生の進学者の第一志望合格率 95%以上 3 月末までの進路決定 100% 進路決定に向けた指導が充実していると答える生徒 90%以上【進路課他】</p>	<p>就職者の第一志望合格率 89.6% (95%) 進学者の第一志望合格率 97% (98.4%) 進路 未定 1 (1/16 時点) (100%) 指導が充実していると答えた生徒 84.9% (87.8%)</p>	<p>A</p> <p>今年度の 3 年生就職者は、同一企業に複数名が受験したため、本校生徒内で比較されて内定をもらえない者が目立った。 進学者に対しては、「オール裾野」体制で面接・志望理由書作成支援を行った結果、目標を上回ることができた。</p>
		<p>「産業社会と人間」・「総合的な探究の時間」が自己のためになったと答える生徒 80%以上【総合学科キャリア教育推進室】</p>	<p>自己のためになったと答えた生徒 73.9% (70.3%)</p>	<p>B</p> <p>ファシリテートする教員の継続的な働きかけや外部コーディネーターと連携する中で、生徒の実態に合わせたプログラムを実践できた。 社会情勢や地域社会の状況をみての変更も積極的に行っていく。</p>
		<p>インターンシップ参加者 2 年生 (就職希望者) 100% オープンキャンパス参加者 (進学者) 100% 志望学部・志望</p>	<p>就職希望 2 年生 100%参加 (100%) 進学希望オープンキャンパス参加者 100% (100%)</p>	<p>A</p> <p>(継続して、) 進路希望調査やインターンシップを (夏休みに) 実施するなどして、生徒の進路意識を上げる手段とした。 進路ガイダンスや職業セミナーが、3 学期実施のため、調査時点で、1・2 年生ともに進路希望が明確になっていない者がい</p>

		<p>学科・志望職種が明確になったと答える2年生80%以上 自己の進路目標に即して系列を選ぶことができたと答える1年生が90%以上【進路課他】</p>	<p>志望学部等が明確になったと答えた2年生71.5% (75%)</p> <p>系列を選ぶことができたと答えた生徒87.5% (84.5%)</p>		<p>た。</p>
		<p>平日、休業中の補習参加者各学年30人以上 【進路課他】</p>	<p>(放課後講習) 1年2人(公務員講座) 2年8人(公務員講座)(16人) 3年16人(公務員講座)(25人)</p>	B	<p>今年度は、大原から講師を招き公務員志望者に対する外部補講を実施した。また、新たに放課後自習室を設置し、放課後(特に定期考査前)等で利用できるようにした。</p>
オ	<p>学校行事、特別活動、部活動を充実し、生徒に自信と誇りを持たせ、学校の活性化を図る。</p>	<p>生徒会活動は行事の成功につながっていると答える生徒90%以上 学校行事は充実していると答える生徒90%以上 【生徒課】</p>	<p>行事の成功につながっていると答えた生徒89.6% (87.4%)</p> <p>充実していると答えた生徒86.1% (88.8%)</p>	A	<p>広報活動を広げたり、新しい企画を実施したりと執行部は積極的に活動した。 五龍祭、球技大会等生徒が主体的に考え、運営することができた。 クラス数や系列数を踏まえ、今後の在り方を職員全体でも検討する。</p>
		<p>HR活動を通してクラスのまとまりがあると答える生徒90%以上【生徒課他】</p>	<p>まとまりがあると答えた生徒78.9% (82.8%)</p>	B	<p>五龍祭・球技大会等を通じて、さらにクラスのまとまりを強めたい。</p>
		<p>所属している部活動に満足していると答える生徒85%以上【生徒課他】</p>	<p>満足していると答えた生徒75.4%(78.2%)</p>	B	<p>部活動の統廃合が進む中でも、生徒の興味・関心に応えられる活動を行っていく。</p>
カ	<p>保護者や地域住民等への広報活動を充実し、地域貢献活動を活発に行う。</p>	<p>HPを活用して毎週1回以上の情報を発信し、月のアクセス数を2,500以上とする。 HPやCラーニング等で学校の</p>	<p>HPにて情報発信し、アクセス数は月平均4,524であった。 HPやCラーニング等で学</p>	A	<p>HP・部活動のインスタ等、情報発信の場として活用する。 継続してCラーニングによる生徒・保護者への連絡を行う。</p>

		<p>様子を知ることができるかと答える保護者 90%以上</p> <p>各学年部は学期に3回以上保護者に対して学校の様子がわかる広報紙を発行する。</p> <p>報道提供件数 20件以上</p> <p>【情報委員会・総務・学年他】</p>	<p>校の様子を知ることができた保護者 94.7% (89.8%)</p> <p>学年部からの広報等は、Cラーニングにて広報した。</p> <p>報道提供件数は、17件(30件)</p>		<p>今後も、継続して行事等あるごとに報道提供する。</p>
		<p>地域向け学校広報を月に1回発行する。【総合学科キャリア教育教育推進】</p>	<p>毎月1回発行した。</p>	A	<p>月ごとの発行、紙面の内容の充実等の工夫も行った。</p>
		<p>PTA 総会・学年保護者会の出席率 25%以上</p> <p>PTA 活動の趣旨を十分理解して参加していると答える保護者 65%以上【総務図書課】</p>	<p>総会出席率 23.6% (20.5%)</p> <p>十分理解していると答えた保護者 67.2% (61.3%)</p>	A	<p>総会後の説明会への参加は多いため、各学年の行事を取り入れるなど、工夫をした。</p> <p>会員数の減少に伴って、役員数や仕事の内容の見直しが必要。</p> <p>また、今後総会の在り方についても検討していく必要がある。</p>
		<p>清掃活動以外の一部活動一ボランティア活動の実施 100%【生徒課他】</p>	<p>7部活で実施した。(3)</p>	B	<p>さらに多くの部活動での活動ができるとうい。</p>
キ	<p>職員及び生徒の国際化を推進し、グローバル人材を育成する。</p>	<p>地球的規模の課題について興味を持ったと答える生徒 60%以上</p> <p>英語検定合格者数 3級 15人以上 準2級 10人以上</p> <p>漢字検定合格者数 2級 5人以上、準2級 10人以上</p> <p>数学検定合格者数 準2級 5人以上</p> <p>商業検定合格者</p>	<p>興味を持ったと答えた生徒 55.9% (53.8%)</p> <p>・英検合格者 3級 3人、準2級 1人 2級 0人、</p> <p>・漢検合格者 2級 3人、準2級 3人</p> <p>・数学検定 準2級 0人</p> <p>商業検合格者</p>	B	<p>検定実施の際、授業等での生徒連絡を徹底することで受験者数を上げていく。</p> <p>リスニング直前対策や個別指導により挑戦で受ける生徒も多かったため、合格者は目標達成できなかったが、意識づけができた。(英検)</p> <p>系列にとらわれず、全ての生徒に受検の機会を知らせて挑戦を促すことができている。今後も継続して積極的に受検するような環境づくりに努めている。</p>

		数 全商検定 (簿記・情報・電卓) 1級 20人以上【学年部・教科】	全商1級電卓 検定部門 15人		
ク	教職員は研修に積極的に参加し、組織的な取組により学校力の向上に貢献する。	授業参観後の合評会や生徒による授業評価アンケートを100%実施【教務研修課】	授業評価アンケートを実施した。(非常勤講師を除く)	B	授業評価アンケートの結果を踏まえて、各教員が授業改善に努めている。 授業見学のシステムの変化や意識改革が必要である。
		「主体的・対話的で深い学び」及び「ユニバーサルデザイン」を意識して授業を行う教員の割合が100%【教務研修課・教科他】	意識して授業を行うと答えた教員100% (97.1%)	A	研修でも取り入れ、理解を深めている。また、ユニバーサルデザインへの意識もかなり向上している。
		必要な生徒に対して個別支援計画を作成 UD教育を取り入れる教員100%【保健相談課】	UD教育を取り入れている教員93.5% (88.2%)	B	個々の生徒への対応や指導を行うことができた。個別の対応が充実してきており、通級指導による生徒の満足感が高い。
		教務・研修課、生徒課の連携により、採用1～3年目の教員のための生徒指導に関する研修を導入する。 教職員が連携し、カリキュラム・マネジメントを意識した教育活動を実践し、教育効果が上がったと実感する教員80%【教務研修・生徒課】	若手教員の情報交換ならびに各課の先輩教諭からの助言によって、指導力の向上を図った。 教育効果が上がったと実感する教員77.4% (79.4%)	A	若手教諭の情報交換ならびに各課の先輩教諭からの助言によって、指導力の向上を図った。 探究的活動への意識や教科横断型の授業内容等、より多岐に渡るカリキュラム・マネジメントの意識を醸成するために、教科間の情報交換をさらに密に行っていく。
ケ	教職員は業務の効率化を図り、ワークライフバランスに努める。また、次世代育成支援を意識した行動に取り組む。	月曜日の定時退勤励行 (午後6時完全退勤) 午後8時完全退勤90%以上 夏季休暇完全取得	午後8時完全退勤は、年度初めや高校総体等の時期を除き、完全退勤90%以上。 夏季休暇は全職員が5日間	A	超過時間の多い教員の産業医による面談希望はなかったが、健康診断結果についての面談希望はあり、自分の健康を再確認する機会となった。 毎月の安全衛生委員会の実施により働き方について、見直す機会を作った。

様式第3号

		一人当たり時間外勤務月平均30時間以下 一人当たりの年休取得日数平均13日以上【全員】	取得済。 一人当たり時間外勤務月33.5時間であったが、オフシーズンでは、時間外は減少した。 一人当たりの年休取得数は、平均14日だった。		休暇促進等の声掛けをするとともに業務削減への取組をさらに進めていく。
コ	安心安全な教育環境の整備、充実に努める。	体罰、セクハラ等 サービス事故0件 施設設備に起因する事故 件数0件 監査、検査での指摘、文書指導等の件数0件 学校の施設・設備が整備されていると答えた生徒85%以上 警報時の対応について承知していると答えている生徒や保護者85%以上【管理職・事務部・保健相談課】	サービス事故0件 施設設備に起因する事故件数0件 監査、検査での指摘、文書指導等の件数0件 整備されていると答えた生徒74.9% (76.2%) 警報時の対応について承知していると答えた生徒81.4% (86%) 保護者85.8% (79%)	B	体罰、セクハラ等については、研修等を実施して、教員のコンプライアンス意識の向上を図っている。 施設設備については、校舎等の老朽化においても、随時修理等をしながら環境整備ができています。 警報時の対応については、ホームページ・Cラーニングを活用する。